



Title	大阪大学世界言語研究センター論集 第7号 編集後記, 奥付
Author(s)	
Citation	大阪大学世界言語研究センター論集. 2012, 7
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/21812
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

第7号 編集後記

本号冒頭のセンター長の終刊の辞にもありますように、本誌は第7号をもちまして終刊となります。センターの構成員だけではなく外部の研究者からも多くの投稿があり、短い期間ではありましたが、センター内外の意見交換・切磋琢磨の場としての役割をある程度は果たせたと思います。

「世界の言語と言語を基底とする文化に関する研究を掲載・発表することにより、学術研究の発展に寄与する」という本誌の目的・理念は、執筆要領の第1項「原稿の執筆言語は問いません」に端的に表されています。この短い文言のなかには、どの言語で書かれた原稿であってもその内容を評価できるというセンターの研究能力への自負とともに、世界に存在するすべての言語への敬意が込められています。この文言により、おそらく本誌は世界でもっとも幅広い潜在的「書き手」を有した学術誌でありました。多くの「読み手」を意識して研究成果を公表することは重要ではありますが、その一方で「書き手」が書きたい言語で発表できる場を確保することも大変意義のあることです。しかもそれが、閉ざされた単一の言語空間のなかではなく、一つの学術誌のなかに共存するという点は、グローバル化のなかで多様性・地域性を保持しながら共存する現代世界のあり様に呼応しており、本誌の独自性であったと考えます。

本センターが言語文化研究科と統合し、大阪大学のなかに旧大阪外国語大学の学的蓄積がより深く取り込まれた後に、『大阪外国語大学 学報・論集』、『世界言語研究センター論集』と続いてきた伝統がどのような展開を見せるのか、楽しみにしております。

最後になりましたが、編集委員を代表いたしまして、関係者各位と本誌の読者に御礼申し上げます。特に、査読をお引き受けいただいた外部の研究者の方々、また世界言語研究センター事務部の研究協力係の方々には大変にお世話になりました。みなさま、どうもありがとうございました。(村上栞)

編集委員	村上忠良(委員長)	米田信子(副委員長)
	今岡良子	岡本真理
	北田信	清水政明
	田邊欧	原真由子
	平田惠津子	

大阪大学世界言語研究センター論集第7号 2012年3月8日 発行

〒562-8558 箕面市栗生間谷東8丁目1番1号

編集者
発行者

大阪大学世界言語研究センター

編集代表者 村上忠良

印刷者

株式会社 一心社

〒543-0052 大阪市天王寺区大道1-14-15

TEL (06)6771-1121

ISSN 1883-5139

©大阪大学世界言語研究センター2012